

平成19年度事業報告

財団法人山梨県健康管理事業団

平成19年度事業報告

I 検診・検査事業

1 基本健康診査

老人保健法に基づき県下11市町村において40歳以上の住民12,541人及び法対象外39歳以下の住民等1,921人、合せて14,462人の検診を実施し、前年度に比較して1,344人増加した。

検査結果の指導区分は、異常を認めず1,144人(7.91%)、要指導4,029人(27.86%)、要医療7,363人(50.91%)であった。

	市町村	受診者数	異常を認めず	(%)	要指導	(%)	要医療	(%)
平成18年度	9	13,118	323	2.47	7,154	54.76	5,588	42.77
平成19年度	11	14,462	1,154	7.98	5,945	41.11	7,363	50.91
比較増減	2	1,344	831	5.27	△1,209	△13.65	1,775	0.81

2 胃がん検診

県下18市町村の40歳以上の住民14,867人、39歳以下の住民、県職員、教職員及び事業所職員等5,777人、合せて20,644人の検診を実施し、前年度に比較して379人増加した。

受診者のうち県医師会読影委員会による判定の結果、精密検査を要する者は2,330人で要精検率11.29%であった。

追跡調査の結果、精密検査を受けた者は1,725人、精検受診率74.03%であった。

精密検査結果の内訳は、胃がん13人(発見率0.063%)、胃ポリープ349人、胃潰瘍103人、十二指腸潰瘍81人、胃・十二指腸潰瘍26人、その他870人、異常なし283人であった。

	市町村	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)
平成18年度	18	20,265	2,074	10.23	1,561	75.30
平成19年度	18	20,644	2,330	11.29	1,725	74.03
比較増減	0	379	256	△1.63	△302	1.5

(胃がん検診精密検査結果内訳)

	胃がん	胃ポリープ	胃潰瘍	十二指腸潰瘍	胃・十二指腸潰瘍	その他	異常なし
平成18年度	15	302	115	68	21	744	296
平成19年度	13	349	103	81	26	870	283
比較増減	△2	47	△12	13	5	126	△13
	がん発見率(%)						
平成18年度	0.074						
平成19年度	0.063						
比較増減	△0.011						

3 肺がん検診

県下14市町村の住民41,330人、県職員及び事業所職員等2,129人、合せて48,153人の検診を実施し、前年度に比較して77人減少した。

受診者のうち、精密検査を要する人は1,116人、要精検率2.32%であった。

追跡調査の結果、精密検査を受けた人は925人、精検受診率82.90%であり、報告されたがん患者は18人で、がん発見率は0.037%であった。

また、喫煙者、希望者等を対象とした喀痰細胞診は1,999人が受診し、要精検者は2名で「悪性腫瘍細胞有り」が1人であった。

	市町村	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん患者数	がん発見率(%)
平成18年度	13	48,230	1,086	2.25	773	71.18	24	0.049
平成19年度	14	48,153	1,116	2.32	925	82.90	18	0.037
比較増減	1	△77	30	0.08	152	11.72	6	△0.012

(喀痰細胞診)

	受診者数	異常認めず	追加検査	要精検者数	精検受診者数	がん発見数	がん発見率(%)
平成18年度	1,683	1,648	2	3	2	1	0.059
平成19年度	1,999	1,995	2	2	1	1	0.050
比較増減	316	347	±0	1	1	±0	0.009

4 大腸がん検診

県下11市町村の40歳以上の住民9,067人、39歳以下の住民及び95事業所の職員1,770人、合せて10,837人の検診を実施し、前年度に比較して1,090人増加した。

受診者のうち、精密検査を要する者は599人で要精検率5.53%であった。

追跡調査の結果、精密検査を受診した者は305人、精検受診率は50.9%で、精密検査結果の内訳は、大腸がん7人(発見率0.064%)の他、大腸ポリープ105人(腺腫62人)、大腸憩室50人、痔核・裂肛26人、その他13人、異常なし104人であった。

	市町村	事業所	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)
平成18年度	9	21	9,747	496	5.09	249	50.2
平成19年度	11	95	10,837	599	5.53	305	50.9
比較増減	2	3	1,090	103	0.44	56	0.7
	がん患者数	がん発見率(%)					
平成18年度	6	0.062					
平成19年度	7	0.064					
比較増減	1	0.002					

(大腸がん検診精密検査結果内訳)

	大腸がん	大腸ポリープ(腺腫)	大腸憩室	痔核・裂肛	その他	異常なし
平成18年度	6	81(41)	35	14	14	92
平成19年度	7	105(62)	50	26	13	104
比較増減	1	24(21)	15	12	1	12

5 乳がん検診

県下10市町村の住民4,838人、36事業所職員830人及び冬季限定で実施した一般住民428人、またがん検診普及啓発による街頭キャンペーンで受診された11人、合わせて5,668人(視触診61件、マンモグラフィ2,665件、超音波検査3,296件)の検診を実施し、前年度に比較して1,757人増加した。

受診者のうち、精密検査を要する者は188人、要精検率は3.51%であった。

追跡調査の結果、精密検査を受診した者は156人、精検受診率83.0%で、精密検査結果の内訳は、乳がん7人(発見率0.131%)、乳腺症35人、線維腺腫25人、乳腺のう胞17人、その他31人、異常なし46人であった。

	市町村	事業所	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)
平成18年度	8	13	3,911	216	3.87	204	94.4
平成19年度	10	36	5,668	188	3.51	156	83.0
比較増減	2	23	1,757	△28	△1.11	△48	△1.14

(乳がん検診精密検査結果内訳)

	乳がん	乳腺症	線維腺腫	乳腺のう胞	その他	異常なし	がん発見率(%)
平成18年度	10	53	49	49	42	98	0.18
平成19年度	7	35	25	17	31	46	0.131
比較増減	△3	△28	△24	△32	△11	△52	△0.049

6 超音波検診

肝臓、胆のう、膵臓、腎臓、脾臓等の上腹部臓器の超音波検診は、18市町村住民19,096人及び38事業所の職員1,916人、合せて23,729人の検診を実施し、前年度に比較して3,237人増加した。

受診者のうち、精密検査を要する者は678人、要精検率2.86%であった。

追跡調査の結果、精密検査を受診した者は411人、精検受診率60.6%で、精密検査結果の内訳は、胆のう疾患が134件と最も多く、ついで肝臓疾患111件、腎臓疾患53件、膵臓疾患35件、脾臓疾患4件の順(その他11件)で、異常無しは48件であった。

上記疾患の内、がんと診断されたものは10件(肝臓7、腎臓3)で、がん発見率は0.042%であった。

	市町村	事業所	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)
平成18年度	17	24	20,492	714	3.48	456	63.9
平成19年度	18	38	23,729	678	2.86	411	60.6
比較増減	1	14	3,237	△36	△0.62	△45	△3.3

(超音波検診精密検査結果内訳)

	胆のう疾患	肝臓疾患	腎臓疾患	膵臓疾患	脾臓疾患	その他	異常無し
平成18年度	169	192	101	39	1	5	46
平成19年度	134	111	53	35	4	0	48
比較増減	35	△81	△48	△4	3	△5	2

	が ん						が ん 発見率(%)
	肝臓(転移性含)	胆のう	腎臓	膵臓	その他	計	
平成18年度	5	1	1	1	3	11	0.054
平成19年度	7	0	3	0	0	10	0.042
比較増減	2	△1	2	△1	△3	△1	△0.012

7 骨粗鬆症検診

高齢化社会を迎え、骨粗鬆症に起因する骨折などによる寝たきり老人の発生を未然に防ぐことを目的とした骨粗鬆症予防検診を、8市町村の住民等4,073人の検診を実施し、前年度に比較して965人増加した。

受診者のうち、要指導者は1,666人（40.90%）、要精検者は245人（5.60%）であった。

	市町村	受診者数	要指導者数	(%)	要精検者数	(%)
平成18年度	8	3,108	809	26.02	228	7.34
平成19年度	8	4,073	1,666	40.90	245	5.60
比較増減	0	965	857	12.77	17	△2.33

8 結核検診

結核予防法に基づき、15市町村の住民と高校生、教職員及び県職員等合わせて69,745人（間接撮影63,030人、デジタル撮影4,943人、直接撮影1,772人）の検診を実施した。

受診者のうち、精密検査を要する者は472人、要精検率0.68%であった。

精密検査を受診した者は341人、精検受診率72.24%で、発見患者は1人であった。

	市町村	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者	精検受診率(%)
平成18年度	15	67,271	763	1.13	483	63.30
平成19年度	15	69,745	472	0.68	341	72.24
比較増減	±0	2,474	△291	△0.44	△142	8.94

	発見患者数	患者発見率(%)
平成18年度	1	0.0015
平成19年度	1	0.0014
比較増減	±0	△0.001

9 小児生活習慣病予防健診

近年、年少者の生活習慣に起因する疾病が増加傾向にあり、その発症を予防するため、小・中学校等5校で小児生活習慣病予防健診を実施した。

受診者の総数は90人、判定区分で要生活指導25人（27.77%）、要経過観察13人（14.44%）、医学的管理4人（4.44%）であった。

	学校数	受診者数	要生活指導	(%)	要経過観察	(%)	要医学的管理	(%)
平成18年度	5	74	21	28.38	14	18.92	4	5.40
平成19年度	5	90	25	27.77	13	14.44	4	4.44
比較増減	0	16	4	0.62	1	1.48	±0	0.74

10 心臓検診

小・中・高校の児童・生徒等13,331人の心電図検査を実施し、前年度に比較して942人増加した。

受診者のうち、精密検査を要する者は741人で要精検率は5.56%であった。

また、592人の心音図検査を実施し、要精検者は29人で要精検率は4.90%であった。

	心電図検査			心音図検査		
	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	受診者数	要精検者数	要精検率(%)
平成18年度	12,389	856	6.91	974	75	7.70
平成19年度	13,331	741	5.56	592	29	4.90
比較増減	942	△115	△1.35	△382	△46	△2.80

11 寄生虫卵検査

幼稚園、保育所、学校の児童・生徒等59,136件の検査を実施し、前年度に比較して3,766件減少した。

保卵者は15人（蟯虫9人、その他の寄生虫卵6人）で保卵率は0.02%であった。

	実施件数	保卵者	蟯虫	その他の寄生虫卵	保卵率(%)
平成18年度	62,902	28	13	15	0.04
平成19年度	59,136	15	9	6	0.02
比較増減	△3,766	△13	△4	△7	△0.02

12 尿検査

幼稚園・保育所・小・中・高・特殊学校の幼児・児童・生徒及び各学校の教職員等64,944件の第1次検査を実施し、陽性者は1,476人（糖56人、蛋白のみ260人、潜血のみ1,117人、蛋白・潜血43人）で陽性率2.27%であった。

また、第1次検査の陽性者に対して1,214件の第2次検査を実施し、陽性者は339人（糖15人、蛋白のみ42人、潜血のみ268人、蛋白・潜血15人）で陽性率27.92%であった。

	第1次検査			第2次検査		
	受診者数	陽性者	陽性率(%)	受診者数	陽性者	陽性率(%)
平成18年度	75,555	2,117	2.80	1,683	440	26.14
平成19年度	64,944	1,476	2.27	1,214	339	27.92
比較増減	△10,611	△525	△0.53	△421	△176	△3.32

(陽性者内訳)

	第1次検査				第2次検査			
	糖	蛋白	潜血	蛋白・潜血	糖	蛋白	潜血	蛋白・潜血
平成18年度	64	382	1,602	69	21	54	337	27
平成19年度	56	260	1,117	43	15	42	268	15
比較増減	△8	△122	△485	△26	△6	△12	△69	△12

13 血液貧血検査

中学・高校の生徒等1,841人の検査を実施し、前年度に比較し306人減少した。
検査の結果、軽度異常者は45人（2.44％）で要精検者9人（0.49％）であった。

	受診者数	軽度異常者数	軽度異常率(%)	要精検者数	要精検率(%)
平成18年度	2,147	55	2.56	12	0.56
平成19年度	1,841	45	2.44	9	0.49
比較増減	△306	△10	△0.12	△3	△0.07

14 腸内細菌検査

学校給食従事者等の腸内細菌検査（腸管出血性大腸菌0-157、サルモネラ菌、赤痢菌）9,619件を実施し、前年度に比較して1,508件減少した。
検査の結果、陽性者は0件であった。

	検査数	陽性者数		
		0-157	サルモネラ	赤痢
平成18年度	11,127	0	1	0
平成19年度	9,619	0	0	0
比較増減	△1,508	±0	△1	±0

15 個別健康教育

3市町より委託を受け、基本健康診査における要指導者（高脂血症、糖尿病）の検査を行うとともに、医師、保健師、看護師等を派遣し、個別健康教育を実施した。

20年度より「特定健診・特定保健指導」が保険者の義務での実施となるため、事前準備段階として取り組んだ。

16 エイズ休日夜間相談検査

19、20年度の2カ年に渡り(財)エイズ予防財団からの委託を受け、エイズ対策として保健所で実施していない休日、夜間の相談及び検査を実施し、平日夜間は50日、休日は18日を行い、検査件数は125件で確認検査は0件であった。

17 アンチエイジングドック

県からの委託を受け、19年度に市町村等が生活習慣病予防のために実施している健康診査等に加えて、アンチエイジング(抗加齢)に着目した骨や血管の状態を検査及び保健指導を行い、その結果から市町村等への健診項目、保健指導等の提案を行う目的で実施した。県内から応募した対象人員は40名、対象年齢は40～65才で実施日程は年度中2回行った。検査の結果、内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の判定結果は次のとおりであった。

	受診者数	基準該当	予備群該当	非該当
男性	13名	2名	2名	9名
女性	27名	1名	6名	20名
合計	40名	3名	8名	29名

Ⅱ 普及啓発活動

1 がん征圧月間のがん予防知識普及啓発

例年全国的に行われる、9月のがん征圧月間行事として、がん予防に関する知識の普及啓発ラジオCM放送と新聞広告の掲載をするとともに、昨年と同様にオギノリバーシェイ田富店の会場での医師によるがん無料相談と乳がん検診（受診者11名）を行い、また、県下全市町村、医療機関、事業所等にごがん予防知識啓発用ポスター及びリーフレットを配布した。さらに、事業団においても医師による（肺、肝臓、乳がん）のがん無料相談を行った。

2 結核予防街頭キャンペーンの実施

結核予防週間（9月24日～30日）中に全国一斉に展開される結核予防運動キャンペーンに併せ、本県においても県民の結核への関心を高めるとともに、結核予防に関する知識の普及啓発を図るため、平成19年9月25日に、JR甲府駅構内において、県、県愛育連合婦人会等、関係機関の協力のもと、結核予防普及啓発資料の配布などによる結核予防街頭キャンペーンを実施した。

3 健康づくり相談、簡易健康診断「いきいき健康チェック」の開設

生活習慣病予防啓発事業の一環として、平成20年2月の生活習慣病予防週間（2月1日～7日）に合わせ、県民情報プラザにおいて、健康づくり相談、簡易健康診断「いきいき健康チェック」を開設し、348人の来場者に対し生活習慣病の予防に関する知識や実践の普及啓発に努めた。

4 各種イベントへの参加

県、県中小企業団体中央会、南アルプス市が主催するイベントに積極的に参加し、簡易健康診断、検診車の展示、結核・生活習慣病予防などに関するパネル展示及び各種パンフレットの配布などを次のとおり実施し、県民の健康づくりに対する意識の高揚に努めるとともに、事業団のPRを行った。

(1) 平成19年11月3日（土・文化の日）

- 南アルプス市「ありがとう心あったか祭り」 於 白根桃源文化会館
 - ・健康コーナー開設（骨密度測定、血管年齢・肥満度測定、保健指導）
受診者58人
 - ・事業団パンフレット等配布 ・健康教育パネルの展示

(2) 平成19年11月10日（土）・11日（日）

- 県主催「第20回県民の日記念行事」 於 小瀬スポーツ公園
 - ・身障者対応型胸部X線デジタル検診車の展示
 - ・結核、乳がん予防、活力年齢、事業団パンフレット等配布 ・健康教育パネルの展示

(3) 平成20年3月9日（日）

- 県中小企業団体中央会主催「中小企業組合まつり2008」
於 アイメッセ山梨
 - ・簡易健康チェック（血圧、骨密度測定、血管年齢・肥満度測定、保健指導等）
 - ・受診者53人
 - ・結核、乳がん予防、事業団パンフレット等配布 、健康教育パネルの展示

5 ホームページの活用

ホームページを活用し、事業团组织及び経営理念、事業案内による検診事業全般の内容紹介など広く県民に情報発信し、事業団をPRするとともに、各種がん検診、生活習慣病予防の正しい知識の普及啓発に努めた。

6 健康教育用資料の貸出し

がん・結核予防・生活習慣病予防ビデオ、パネル等を、健康教育用資料として、市町村並びに関係各機関へ配布、貸出しを行い、がん・結核予防・生活習慣病予防に対する認識と検診の重要性について普及啓発を行った。

7 講演会の開催

市町村保健師、学校養護教諭、一般県民等を対象とし、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に関する知識の普及を図り、県民の健康づくりの一助とすることを目的として、次により講演会を開催した。

○ 平成20年2月26日

- ・場 所 ベルクラシック甲府
- ・講 師 山梨大学医学部社会医学講座 鈴木 孝太 先生
- ・演 題 「メタボリックシンドローム」
ーよい生活習慣があなたの健康を守りますー
- ・後 援 県、県医師会、県市長会、県町村会、健やか山梨21推進会議
- ・参加者数 110人

8 その他広報資料の配付

(財)結核予防会、(財)日本対がん協会、(財)予防医学事業中央会の各本部発行広報誌「複十字」、「対がん協会報」、「家族と健康」等を広報資料として市町村及び各関係機関等へ配付し、健康に関する知識の普及啓発に努めた。

Ⅲ 研修事業

- 1 当事業団は(財)結核予防会、(財)日本対がん協会、(財)予防医学事業中央会のそれぞれの山梨県支部である。

各検診事業の充実を図るため、当該3団体が主催する研修会、協議会等に職員を参加させた。

	名 称	開 催 月 日	参 加 人 員
結核 予 防 会	健康支援者養成研修会	4月19日～22日	1人
	ネットワーク事業担当者会議	5月14日	2人
	特定健診・特定保健指導説明会	9月25日	1人
	3団体共催による新公益法人制度及び公益認定勉強会	10月15日	1人
	健康支援者養成研修会	11月29日～12月2日	1人
	関東甲信越支部ブロック会議	12月6日～7日	1人
	第12回結核予防関係婦人団体中央講習会	2月6日～8日	2人
	健康ネットワーク事業システム説明会	2月13日	3人
	特定健診・特定保健指導ネットワーク地区別会議	2月19日	1人
	全国支部長会議	2月29日	1人
	健康ネットワーク事業担当者会議	3月27日	2人
対 が ん 協 会	全国支部事務局長会議	6月14日	1人
	がん征圧全国大会	9月12日～14日	2人
	関東甲信越支部連絡協議会	11月8日	1人
予 防 医 学 中 央 会	第1回全国運営会議	5月28日	2人
	特定健診・特定保健指導実務者セミナー	8月2日～3日	2人
	臨時全国運営会議	8月24日	1人
	予防医学事業推進全国大会	10月3日～5日	2人
	予防医学事業推進関東甲信越地区会議	10月25日～26日	2人
	技術運営会議及び予防医学技術研究集会	2月28日～3月1日	2人

- 2 各種検診の高度化、多様化に対応するため、各関係団体等が主催する各種学会、研修会等へ職員を参加させた。

	名 称	開 催 月 日	参 加 人 員
	第14回山梨生化学泉郷セミナー	9月1日～2日	1人
	第54回日本臨床細胞学会細胞検査士教育セミナー	9月8日～9日	1人
	日本消化器がん検診学会	10月18日～21日	1人
	全国公益法人協会「新年度予算編成の実務」特別講習会	11月12日	1人
	日本臨床細胞学会秋期大会	11月30日～12月1日	1人
	第40回放射線部会総会	2月23日	1人
	消化管造影技術研修会	3月7日～9日	1人
	全国公益法人協会「決算実務」特別講習会	3月11日	1人

- 3 県内の8つの検診実施機関と山梨大学医学部及び集団検診関連病院で構成する山梨県検診実施機関連絡協議会に参画し、検診の普及啓発、運営及び精度向上の諸課題に取り組んだ。

IV 会議の開催

1 理事会

- (1) 平成19年7月30日 於 ベルクラシック甲府
役員の改選、平成18年度事業報告、一般会計及び救急医療情報システム特別会計決算報告、平成19年度一般会計補正予算(案)等について審議が行われ、可決承認された。
- (2) 平成20年3月19日 於 ベルクラシック甲府
役員の選任、理事長の互選、平成20年度事業計画(案)、同一一般会計及び救急医療情報システム特別会計収支予算(案)等について審議が行われ、可決承認された。

2 経営評価委員会

事業団の自主的な運営体制の確立を目的とし、今後の経営状況や経営強化の実施状況について適切な評価を行うため、外部の経営専門家として公認会計士等3名を構成メンバーとした、経営評価委員会を今年度も平成20年2月6日に開催し、事業団の経営状況、経営改善の進捗状況等について説明を行い、委員の方々から今後自主自立の運営上必要な事項等について意見をいただいた。

V 救急医療情報センター運営業務

当センターは、平成元年4月1日から、全県ネットワークの医療情報システムの開始に伴い、県から同システムの業務委託を受けて、医師会をはじめ、医療機関並びに各市町村などの協力を得ながら、適切な医療情報の提供に努めている。

現在、所長以下9名の職員が24時間体制で、県民からの医療機関及び当番医の照会に対し、適切な情報提供を行う業務を実施している。

1 業務内容

- (1) 情報の収集業務（医療機関に設置された端末装置による応需情報の収集）
- (2) 情報の登録業務（医療機関や当番医の登録、更新）
- (3) 情報の提供業務（患者の症状、発生場所に応じた適切な医療機関の情報提供）
- (4) 各種統計の作成業務

2 年度別案内件数

(件)

年度	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10
件数	2,561	3,693	4,446	4,618	5,405	5,905	6,358	7,585	7,133	8,186
年度	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	合計
件数	9,465	11,292	12,940	12,267	12,900	13,844	14,905	15,384	15,109	173,996

3 案内状況

(件)

種 別		平成18年度	平成19年度
救急医療情報センター案内件数		15,384	15,109
受付時間別案内件数	深夜（0時～8時）	2,135	2,037
	日中（8時～17時）	7,676	6,644
	準夜（17時～24時）	5,573	6,428
診療科目別案内件数	内 科	4,315	4,435
	小 児 科	2,851	2,417
	整形外科	1,682	1,709
	外 科	1,431	1,579
	眼 科	1,307	1,259
	耳鼻咽喉科	1,198	1,077
	歯 科	919	943
	脳神経外科	434	482
	皮 膚 科	406	382
	産婦人科	196	207
	泌尿器科	166	170
	精神神経科	90	70
	そ の 他	389	379
計	15,384	15,109	